

一聯空機密第〃〃號

昭和十三年三月十五日

軍極秘

14

戰鬥詳報

第九〇(二月八日)

第一聯合航空隊

3107

二月八日 宜昌、漢口攻撃

一 形勢

一 二月二日、二月六日兩回宜昌攻撃、目的ヲ以テ出發セ
シモ目的地附近天候不良、爲引返ス

二 漢口方面、攻撃ハ八月下旬以後天候不良ナリトモ蒸
湖基地泥濘、爲掩護戰ニ機ノ使用不能ナリト爲ス
レノ攻撃ヲ實施シ得ザリシモ蚌埠飛行場占領ト共
ニ同飛行場ヲ使用シ漢口攻撃ヲ企圖ス

三 七月一九日、聯合空襲部隊指揮官ヨリ左記命令ヲ受

ク
聯合空襲部隊命令作第一九號

明八日左記ニ依リ漢口及宜昌ノ空襲ヲ實施ス

ハ漢口

- (1) 使用機
 第三空襲部隊 中攻大部
 第一空襲部隊 九六艦戦 十二機
 目標
- (2) 漢口飛行場及兵工廠
 集合場所及時刻
- (3) 蚌埠飛行場上空 一三〇〇
- (4) 補給
- (12) 十三空艦攻二機 朝P基地奔蚌埠飛行場ヲ偵察シ〇九三〇迄ニ飛行機無線ヲ以テ同飛行場ヲ使用シ能クテノ報トス
- (13) 本空中攻三機ハ〇九四〇P基地奔艦戦ヲ燃料及燃備具ヲ蚌埠ニ空輸ス

(c) 艦戦ハコ二五P基地奔拜トニ於テハ
燃料ヲ補給ス

(70-

(d) 当日午前中、蚌、埠飛行場艦戦ノ使用適否
ヲ實地検討シ着陸差支ナキヲ以テ中攻三機ニ
ヨリ戦機用燃料ヲ運搬シ補給基地トシテ
使用ス

(e) 宜昌

第三空襲部隊ノ中、一部ヲ以テシテ要領ハ第三空襲
部隊若極官、定ル所ニ依ル

(備考) 宜昌空襲ハハコ九三〇P基地ヲ

(四) ニハコ五記令ヲ發ス

明日各部隊ハ左記攻撃ニ依リテスベシ

(1) 宜昌飛行場攻撃

④ W 攻撃

(1) 参加飛行機

鹿屋部隊

一五機 (六〇斤爆弾)

木更津部隊

六機 (三五〇斤爆弾)

(2) 爆撃目標区分

鹿屋部隊

飛行場 (第一飛行機第二施設)

木更津部隊

兵工廠

(3) 行動

(a) 各隊司令、定ル所ニ依リ奔進一三〇蚌埠上空

集合

(b) 行動基準隊ヲ木更津隊トス

(c) 鹿屋部隊ハ攻撃終了セバ単獨級投ス

5-3)

二 其他

各部隊報告ノ通

三 功績

多大ノ成果ヲ其手ゲタル宜昌攻撃隊及猛烈ナル地上
砲火ヲ冒シ兵工廠飛行場ニ大損害ヲ與ヘタル漢口攻
撃隊ノ功績ハ何レモ顯著ナリト認ム

四 所見

特ニナシ

(終)

190-

3112

附録一

戦闘記録

一 大更津部隊 (其二)

一 一 敵

聯合空襲部隊命令依り木更津部隊九機ヲ以テ宜
 昌ヲ同六機及鹿屋部隊十三機計十九機ヲ以テW攻
 撃ヲ實施ス、木更津部隊宜昌攻撃隊(指揮官廣
 木大尉)ハ〇九三〇奔進迂迴航路ヲ取り側背方向ヲ宜
 昌飛行場ヲ奇襲一四一五頃有効ナル爆撃ヲ實施シ一七〇〇
 全機飯着飛行場ニ完備機ト思ヘルモノ大型機小型
 機各數機散在ス、戦斗機一機離昇セルモ挑戦
 未ス、飯着通信陽飛行場ヲ偵察セルニ飛行機ヲ認
 ム

(一) 改 果(六〇〇磅爆彈)

(二) 確實ニ爆破セリト認ムモノ大型機ニ、小型機三、(因大

型ニ、小型一、(炎上)

(三) 格納庫ニ棟炎上

(四) 油彈庫ヲシキモノ一棟猛烈ニ炎上

(五) 其ノ他倉庫ヲシキ建物數棟ニ命中彈ヲ得、(因四棟
炎上)

(六) 被害 ナシ

ニ 木更津部隊 (其ノ二)

(一) 一般

木更津部隊 浦次撃隊 指揮官(其ノ四) 尉(八一三) 〇 弁
進 洋 雄(上) 〇 於 下 腐 屋 部 隊 次 撃 隊 及 二 聯 空 戦
斗 機 上 合 同(一三五) 〇 弁 進(一五四) 〇 頃 漢 陽 兵 工 廠(二有)

効ナル爆撃ヲ實施シ、一七四五全機販着、猛烈ナル高
角砲火ヲ受ケタルモ空中戦キヲ行ハス

(二) 成果(三五〇新爆弾)

十彈工廠内ニ命中、工場ニ棟尖上

(三) 被害

高角砲彈片ヲ受ケタルモノニ機(爆撃高度三七〇米)

三 鹿屋部隊

中攻十三機(指揮官得猪少佐)午前十一時三十分并進午後一
時五十分并進上空ニ於テ聯合空襲部隊ニ合同進撃
午後三時四十分ハ飛行場ヲ爆撃ス(三五〇新、六〇新ニ
四機)太白空中敵影ヲ見ズ地上ニ三機ヲ認ムルニ我
爆撃ニ依リ大型機一対ハ有効ナル至近彈數発アリ
別ニ兵舎一棟尖上其他場内ニ多數彈着アリ、相当

ノ損害ヲ其ヘタルモノト認ム午後六時三十分尸基地ニ着
陸セル二機(号八少隊)ヲ除キ全機飯着高角砲火
熾烈ナルモ我被害ナレ
明日使用可能中攻十三機

(終)

(70-

3116